



## 2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年1月31日

上場会社名 株式会社 オートバックスセブン

上場取引所 東

コード番号 9832 URL <https://www.autobacs.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役 社長執行役員 (氏名) 堀井 勇吾

問合せ先責任者 (役職名) 経理・財務部長 (氏名) 高野 浩之 TEL 03-6219-8787

四半期報告書提出予定日 2023年2月7日 配当支払開始予定日 -

四半期決算補足説明資料作成の有無： 有

四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年3月期第3四半期の連結業績（2022年4月1日～2022年12月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	178,141	3.6	9,811	11.4	9,869	4.5	7,038	14.3
2022年3月期第3四半期	171,937	-	8,804	-	9,443	-	6,158	-

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 8,608百万円 (28.3%) 2022年3月期第3四半期 6,712百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	90.30	-
2022年3月期第3四半期	78.11	-

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を前第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年3月期第3四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっており、対前年同四半期増減率は記載しておりません。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期第3四半期	221,830	126,849	57.0	1,622.55
2022年3月期	189,910	122,892	64.5	1,572.48

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 126,475百万円 2022年3月期 122,549百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	-	30.00	-	30.00	60.00
2023年3月期	-	30.00	-		
2023年3月期(予想)				30.00	60.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

### 3. 2023年3月期の連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	230,000	0.6	10,000	△13.4	10,300	△8.4	6,900	△1.6	88.52

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無  
新規 ー社 （社名）ー、除外 ー社 （社名）ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期3Q	82,050,105株	2022年3月期	82,050,105株
② 期末自己株式数	2023年3月期3Q	4,101,695株	2022年3月期	4,116,555株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期3Q	77,942,416株	2022年3月期3Q	78,845,919株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
経営成績に関する説明 .....	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書 .....	6
第3四半期連結累計期間 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(セグメント情報等) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により制限されていた社会経済活動が徐々に正常化へと向かい、個人消費は緩やかに持ち直しの動きがみられたものの、原油や原材料価格の高騰および急速な円安進行による物価上昇を受け、景気の先行きは依然として不透明な状況にあります。

国内の自動車関連業界の動向といたしましては、世界的な半導体不足の影響を受け減少していた新車生産台数は回復基調へ転じましたが、部品供給不足の影響は長期化しており、引き続き低水準で推移しております。加えて、中古車においては、下取り車の流通量の減少により登録台数は依然低迷しております。また、カー用品関連においても、原油や原材料価格の高騰などによる物価上昇の影響もあり、厳しい市場環境におかれております。

当社グループにつきましては、新型コロナウイルス感染拡大防止に努め、ご来店される地域の皆様、お取引先様、従事する従業員の健康と安全を最優先に、安心してご来店、就業できる環境整備に努めております。

このような環境下において当社グループは、社会・クルマ・人の暮らしの変化を捉え適応することで、市場競争力の向上に努めております。当社グループが向かうべき方向性を示す「5ヵ年ローリングプラン」では、より成長の可能性の高い領域への集中を図り、持続的成長と企業価値向上に向けてネットワークおよび事業基盤の強化と事業の推進をしております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高1,781億41百万円（前年同期比3.6%増加）、売上総利益598億20百万円（同4.3%増加）、販売費及び一般管理費500億8百万円（同3.0%増加）、営業利益98億11百万円（同11.4%増加）、経常利益98億69百万円（同4.5%増加）、親会社株主に帰属する四半期純利益70億38百万円（同14.3%増加）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### 〔国内オートバックス事業〕

国内オートバックスチェーン（フランチャイズ加盟法人店舗を含む）の全業態の売上高は、前年同期比で既存店4.2%の増加、全店4.4%の増加となりました。

国内オートバックスチェーンでは、原油や原材料価格の高騰などによる物価上昇の影響が懸念されましたが、個人消費に持ち直しの動きがみられたことに加え、販売促進を強化したことなどにより、堅調に推移いたしました。特に、新車・中古車の登録台数が減少したことによる、既存車に乗り続けるために必要な車両のメンテナンス需要の高まりを受け、関連商品とそれに伴うサービス工賃が好調に推移いたしました。加えて、12月の寒波や降雪により冬季用品需要が前年同期と同じく高水準で推移いたしました。

タイヤについては、メーカー値上げを受け、5月と9月の二度にわたり店頭での価格改定をいたしました。品ぞろえや販売促進、既存車のメンテナンス需要により堅調に推移いたしました。さらに、12月の寒波や降雪の影響によりスタッドレスタイヤが好調で、売上が増加いたしました。カーエレクトロニクスについては、新車減産の影響による低迷が続き、売上が減少いたしました。オイルやバッテリーについては、効果的な販売促進に加えメンテナンス需要の高まりにより好調となりました。

プライベートブランドについては「AQ.（オートバックスオリティ.）」を中心に展開を進めており、2022年9月に発売したAQ.のスタッドレスタイヤ「North Trek N5（ノーストレック エヌファイブ）」が好調となりました。また、心躍るガレージライフを提案するブランド「GORDON MILLER（ゴードンミラー）」を展開するなど、さまざまなお客様のニーズを捉えた価値ある商品の開発・販売を推進しております。

車検・整備については、より安全・安心に車を走らせたいというお客様のニーズを背景に、スキャンツールを使用して車両の状態を電子的に確認する車両診断のサービスが好調に推移いたしました。また、運転支援機能や自動運転機能が付いた先進安全自動車の整備を行う「自動車特定整備制度」への対応を進め、車検指定工場の全店が特定整備認証（電子制御装置整備）を取得しております。さらに、公式アプリの機能拡充により、簡単にピット作業予約が可能になるなど、お客様の利便性向上に向けた取り組みを推進しております。車検実施台数は、上期の車検対象車両台数の減少を背景とした厳しい市場環境により、前年同期比0.1%減少の約46万9千台となりました。

車買取・販売は、中古車の単価上昇や買取台数の増加を背景にオークションへの販売が好調に推移いたしました。これらにより、国内オートバックス事業における総販売台数は前年同期比12.3%増加の約24千2百台となりました。

国内における出退店は、新規出店が3店舗、退店が2店舗、業態変更が1店舗あり、2022年3月末から1店舗増加の589店舗となりました。

これらの結果により、国内オートバックス事業の売上高は1,381億5百万円（前年同期比3.4%増加）となり、セグメント利益は147億45百万円（前年同期比0.4%減少）となりました。

〔海外事業〕

海外事業における売上高は102億46百万円（前年同期比23.5%増加）、セグメント損失は1億33百万円（前年同期は2億17百万円のセグメント損失）となりました。

小売・サービス事業においては、ウクライナ情勢や世界的なインフレの影響を受けたものの、売上は増加し、卸売事業においては新規取引先の開拓などにより、売上が伸びました。

フランスにおいては、インフレなどの影響を受けたものの、価格適正化などの対策を講じたことにより、売上が増加いたしました。シンガポールにおいては、メンテナンス需要の増加によりピットサービスが好調となり、売上が増加いたしました。マレーシアにおいては、116店舗に拡大したオーソライズドディーラーへの卸売が好調で、売上が大幅に増加いたしました。中国においては、ロックダウンの影響が強かったものの、12月以降の規制緩和により中国国内外への卸売が堅調に推移し、売上が増加いたしました。オーストラリアにおいては、カーエレクトロニクス商品や無線機が好調で、新たな卸売先の開拓や専売品の導入などの営業活動により、売上が増加いたしました。

海外における出退店は、新規出店が14店舗あり、2022年3月末の62店舗から76店舗となりました。

〔ディーラー・BtoB・オンラインアライアンス事業〕

ディーラー・BtoB・オンラインアライアンス事業における売上高は377億74百万円（前年同期比0.6%増加）、セグメント利益は7億7百万円（前年同期は25百万円のセグメント損失）となりました。

ディーラー事業は、世界的な半導体不足による新車減産の影響を強く受け売上が減少いたしました。効率的な運営に努め、前年同期を上回る営業利益を確保いたしました。2022年12月に電気自動車メーカーであるBYDの日本法人BYD Auto Japan株式会社とのディーラー契約を締結いたしました。これにより、株式会社オートバックス・ディーラーグループ・ホールディングスが運営する正規ディーラーは、BMW、MINI、AudiにBYDが加わり4ブランドとなります。

BtoB事業においては、社用車のメンテナンスやカー用品などの法人一括払いが可能となる「オートバックス法人会員制度」への加入件数が順調に増加いたしました。また、車検・整備・タイヤ販売を行う子会社やホイールの卸売を行う子会社においても、車両のメンテナンス需要と12月の寒波や降雪により、売上は堅調に推移いたしました。さらに、他業種への卸売の拡大を図るため、卸売専用プライベートブランド商品の開発を進めております。

オンラインアライアンス事業は、2022年11月にインターネットショッピングモール内で「オートバックス楽天市場店」をオープンし、オートバックス公式通販サイト「オートバックスドットコム」とともに、ECサイトによる販売チャネルの拡大とお客様の利便性向上を図っております。また、飲酒運転の根絶を目指し、社用車を運転する前後のドライバーの酒気帯び状態をチェックし、その情報をクラウド上で管理する法人向けサービス「ALCクラウド」が順調に拡大しております。

〔その他の事業〕

その他の事業における売上高は46億15百万円（前年同期比22.8%増加）、セグメント損失は3億75百万円（前年同期は5億49百万円のセグメント損失）となりました。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	24,800	29,335
受取手形及び売掛金	25,842	35,619
商品	21,516	26,161
未収入金	25,778	33,995
その他	10,033	13,781
貸倒引当金	△54	△37
流動資産合計	107,917	138,855
固定資産		
有形固定資産		
土地	24,529	24,734
その他(純額)	20,738	21,900
有形固定資産合計	45,268	46,635
無形固定資産		
のれん	2,215	1,981
その他	6,735	7,691
無形固定資産合計	8,951	9,672
投資その他の資産		
差入保証金	12,744	12,142
その他	15,046	14,540
貸倒引当金	△16	△16
投資その他の資産合計	27,773	26,665
固定資産合計	81,993	82,974
資産合計	189,910	221,830
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	17,702	34,798
短期借入金	1,724	7,161
未払金	14,480	20,238
未払法人税等	1,987	1,688
その他	10,901	14,507
流動負債合計	46,795	78,395
固定負債		
長期借入金	4,917	4,686
引当金	19	19
退職給付に係る負債	3,233	345
資産除去債務	2,675	2,745
その他	9,377	8,787
固定負債合計	20,223	16,585
負債合計	67,018	94,980

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	33,998	33,998
資本剰余金	34,156	34,156
利益剰余金	59,442	61,796
自己株式	△7,016	△6,990
株主資本合計	120,581	122,961
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,308	2,207
為替換算調整勘定	1,065	1,305
退職給付に係る調整累計額	△1,406	—
その他の包括利益累計額合計	1,967	3,513
非支配株主持分	342	374
純資産合計	122,892	126,849
負債純資産合計	189,910	221,830

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	171,937	178,141
売上原価	114,586	118,321
売上総利益	57,351	59,820
販売費及び一般管理費	48,547	50,008
営業利益	8,804	9,811
営業外収益		
受取利息	39	47
受取配当金	78	78
持分法による投資利益	321	—
情報機器賃貸料	472	501
その他	798	779
営業外収益合計	1,709	1,407
営業外費用		
支払利息	57	55
持分法による投資損失	—	285
情報機器賃貸費用	435	440
固定資産除却損	74	43
その他	503	525
営業外費用合計	1,070	1,349
経常利益	9,443	9,869
特別利益		
移転補償金	—	286
退職給付制度終了益	—	891
特別利益合計	—	1,177
税金等調整前四半期純利益	9,443	11,046
法人税、住民税及び事業税	3,077	3,647
法人税等調整額	198	354
法人税等合計	3,276	4,002
四半期純利益	6,166	7,044
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益	6,158	7,038
非支配株主に帰属する四半期純利益	8	6
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	158	△104
為替換算調整勘定	162	262
退職給付に係る調整額	164	1,406
持分法適用会社に対する持分相当額	60	0
その他の包括利益合計	545	1,564
四半期包括利益	6,712	8,608
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,694	8,583
非支配株主に係る四半期包括利益	17	25



(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注1)	四半期連結 損益及び包括利益計算 書計上額 (注2)
	国内オート ボックス 事業	海外事業	ディーラ ー・BtoB・ オンライン アライアン ス事業	その他の 事業	合計		
売上高							
顧客との契約から生 じる収益	129,836	8,055	29,842	2,452	170,186	—	170,186
その他の収益	1,295	—	—	455	1,751	—	1,751
外部顧客への売上高	131,131	8,055	29,842	2,908	171,937	—	171,937
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2,478	241	7,702	850	11,272	△11,272	—
計	133,610	8,297	37,545	3,758	183,210	△11,272	171,937
セグメント利益又は 損失(△)	14,808	△217	△25	△549	14,015	△5,211	8,804

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△5,211百万円は各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
記載すべき重要な事項はありません。

## II 当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注1)	四半期連結 損益及び包 括利益計算 書計上額 (注2)
	国内オート ボックス 事業	海外事業	ディーラ ー・BtoB・ オンライン アライアン ス事業	その他の 事業	合計		
売上高							
顧客との契約から生 じる収益	133,451	9,843	29,927	3,169	176,391	—	176,391
その他の収益	1,283	—	—	466	1,749	—	1,749
外部顧客への売上高	134,734	9,843	29,927	3,635	178,141	—	178,141
セグメント間の内部 売上高又は振替高	3,370	402	7,846	980	12,600	△12,600	—
計	138,105	10,246	37,774	4,615	190,741	△12,600	178,141
セグメント利益又は 損失(△)	14,745	△133	707	△375	14,943	△5,131	9,811

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△5,131百万円は各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

記載すべき重要な事項はありません。